

調査等事項報告 (団体名：会派 改革クラブ)

視 察 先	株式会社庄司製材所 (新庄市内店舗、真室川町内工場など)
視察日時	令和3年7月26日(月) 10時～11時40分まで
視察項目	やまがたモリノミクス事業に見るSDGs
視 察 者	結城正、菊池貞好、犬飼司、阿部正任
内 容	<p>視察目的</p> <p>○県内業界最大手代表者よりウッドショックを含め県内の木材流通の状況調査</p> <p>説明者：代表取締役社長 庄司和敏 氏</p> <p>事実、品不足による値上がりもあり、県外からの新規の引き合いも多いが、県内の顧客を優先して販売している。木材不足にはさほど心配の感はなく、現在も行っている輸出への好機と庄司社長は捉えていた。そのための量産化、コスト削減に向け製材工程のコンピューターオートメーション化を進めてきた。作業の軽減化にもつながり、若者や女性の雇用にもつながっている。これからはロボットの導入など効率化を図り、さらなる経営の規模拡大を進める方針だった。</p> <p>地元の資源である材木を少しも無駄にしないという社長の理念もあり、バーク(木の皮)や木片も再エネルギーとして、木材の乾燥に再利用する設備も整っていた。</p> <p>また、廃校となった地元の小中学校の校舎を引き取り、工場や倉庫などとして再利用、経営規模拡大とともに雇用も生み出し、地域の宝である「森林」と「人」を融合させ、地域民を思い、地域に根差した経営方針に感銘を受けた。</p>

視 察 先	金山町森林組合 (町内事務所、山林)
視察日時	令和3年7月26日(月) 13時30分～15時50分
視察項目	やまがたモリノミクス事業に見るSDGs
視 察 者	結城正、菊池貞好、犬飼司、阿部正任
内 容	<p>視察目的</p> <p>○スマート林業の先進的な取組状況の調査と現場視察</p> <p>説明者：代表理事組合長 近岡 伸 氏 常務取締役 狩谷健一 氏</p> <p>金山町は、県内でも高齢級林分が多く残る林業と建築職人の町。しかし、木材価格の低迷や、共有林が多かったことなどから手入れのされていない山林が目立っていた。近隣に大型集成材工場の進出や木質バイオマス発電</p>

	<p>所が設置されたことにより、新たな需要が生まれ、供給体制の早急な整備が必要となったことから、生産性向上が求められ、経営体制を見直した。</p> <p>航空レーザー計測など ICT 技術を用いて、山林の地形や地籍、樹木情報を把握し現地測量の省力化を図り、木材の伐採、運搬には機械化を進めてきた。緑環境税や森林環境譲与税も有効だった。ICT 林業が当たり前となれば生産性はまだ上がる。それには、山林所有者や地域のまとまりも不可欠である。</p> <p>金山杉の象徴ともいえる大美輪の大杉を見せていただき、樹齢三百年以上という手入れされた樹林に圧巻され、三百年受け継がれてきた金山町の人々の「山」に対する「魂」に感銘を受ける。</p>
--	--

視 察 先	もがみバイオマス発電株式会社（新庄市）
視察日時	令和 3 年 7 月 26 日（月）16 時 15 分～17 時
視察項目	やまがたモリノミクス事業に見る SDGs
視 察 者	結城正、菊池貞好、犬飼司、阿部正任
内 容	<p>視察目的</p> <p>○林業に送る川下の主体となるバイオマス発電所の状況調査</p> <p>説明者：常務取締役 渡部伸也 氏</p> <p>新庄市を中心とした山形、秋田県境地域における森林の立木竹の伐採や干ばつの未利用木や、製材所のバーク、背板等を年間 8 万 5 千トン燃料チップに加工。一日 2 4 0 トンをバイオマス燃料として発電している。</p> <p>発電量は 6, 8 0 0 キロワットと、ほぼ新庄市の電力必要量を賄える規模だが、災害停電時に独自の電源では操業できない状態が課題でもある。</p> <p>また、循環持続可能なシステム作りのため育苗、植林など森林の再生事業も行っている。</p> <p>広大な敷地に積まれた膨大な丸太の山が印象的だった。</p>

視 察 先	温海町森林組合（町内事務所、作業現場）
視察日時	令和 3 年 7 月 27 日（火）9 時 30 分～11 時 30 分まで
視察項目	やまがたモリノミクス事業に見る SDGs
視 察 者	結城正、菊池貞好、犬飼司、阿部正任
内 容	<p>視察目的</p> <p>○林業経営の先進的取組状況の調査と現場視察</p> <p>説明者：代表理事専務 鈴木伸之介 氏</p> <p>管内は 9 割を山林が占め、6, 600 ヘクタールが国有林である。戦後植林</p>

	<p>された杉が熟成期を迎えている。山林は急傾斜地が多く機械化は必須とされていた。</p> <p>隣接地域に国産材の大型製材工場の進出などもあり、森林所有者との話し合いを持ちながら提案型集約化や、県などの支援を得ての高性能林業機械の導入など、低コスト化、量産化からなる持続可能な森林経営を目指している。木材の安定供給には「林業は人と道づくり」を自治体に頼らない独自の開拓手法に驚いた。</p> <p>また、この地域の伝統的な資源の循環利用農法である、焼き畑あつみかぶ栽培も取り入れ、人工林の若返り、再生林に取り組む特色を持っている。現場に赴き、伐採を終え費御入れる前の山林を見せていただいた。</p>
--	--

視 察 先	山形大学農学部（鶴岡市高坂農場内フィールド科学センター）
視察日時	令和3年7月27日（火）14時～16時
視察項目	食と農に関する循環型社会に見る SDGs
視 察 者	結城正、菊池貞好、犬飼司、阿部正任
内 容	<p>視察目的</p> <p>○「スマート・テロワール」地域独自の特色ある「豊かな農村(食料)自給圏」構想に学ぶ</p> <p>説明者：農学博士 浦川修司 氏 施設担当係長 野寺智史 氏</p> <p>山形大学農学部では、地域の風土を生かし、農業技術や加工技術、さらに消費までを共有するユニット、すべてを地域内で完結できる「循環型の経済圏（農村社会）」の構築のため地域の皆様と一緒に取り組んでいる。</p> <p>農業従事者の激減、余剰や耕作放棄となっている水田、食料自給率の輸入増、これらを見直し循環型農村経済圏を築き上げていくことは、これからの未来への必要な取組である。</p>